

# マーケット SCOPE

## マーケットの動きを報じる 「表現力」を高めるには…

このテーマを意識するだけで確実にレベルアップ可能

変化あるところに  
チャンスあり

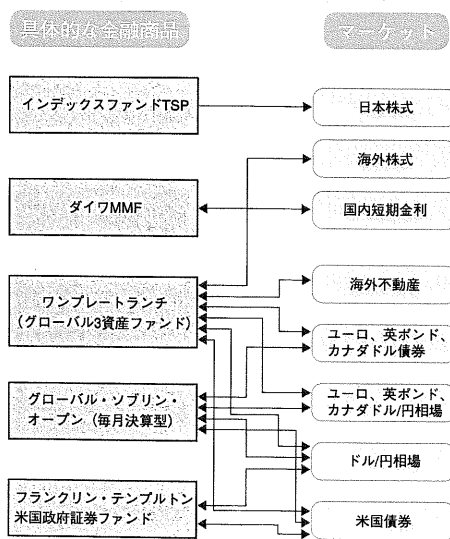
新年度である。この連載も  
ちよびり装いを新たにした。  
ところが、この新装開店直前  
に、数年に一度あるかないか、  
というくらい経済、金融情勢  
が激変した。世界的規模での  
株価急落と急速な円高の進行  
だ。いや、3月8日現在では

「まだ激変しつつある」と言  
わねばならない。  
が、これは願ってもないこ  
と。何しろ「変化あるところ  
にチャンスあり」なのだから。  
これは決して株式投資に固有  
の格言ではなく、学習一般に  
ついて言えることだ。  
小稿をお読みいただいでい  
る多くの方は、小説を読むと  
きのように「消費としての読  
書」を行なっておられるので  
はないと思う。ここで知り得  
たことを仕事の現場で活かす  
という明確な目的があるので  
はないか。そしてここでいう  
「仕事に活かす」は多くの場  
合、「より有意義なコミュニ  
ケーションを他者との間で

なうことができるように」で  
ある。もちろん「他者」とは、  
店頭を訪れる「既存顧客」で  
あり、あるいは訪問先におけ  
る「これから顧客になる可能  
性を持つ他者」であると思う。  
では、「より良い（レベル  
の高い）コミュニケーション  
を持つ」ためにはどうすれば  
いいか。「（自らが）より優れ  
た表現手段を持つ」ことから  
始めるに限る。

「質」は「量」の前  
「質」は「量」の前  
「質」は「量」の前  
「質」は「量」の前

図表1 なぜ「マーケットの学習が不可欠」なのか



ら、いまだに顧客とのコミュニ  
ケーションの質が、それ以  
前の国内預金一辺倒の時代か  
らあまり変わっていないよう  
に思う。

図表1は、銀行などが扱う  
頻度が高い投資信託を並べて  
みたものだ。これらのファン  
ドの基準価額（つまりは運用  
成績）は何によって決まるか。  
無論、右側に配した各種のマ  
ーケットの動きだ。非常に乱  
暴に言うと、これらのマーケ  
ットの影響が7〜8割、ファ  
ンドマネジャーの能力が及ぶ  
範囲はおそらく2〜3割程度  
だろう。  
であれば、これらのファン  
ドを買う（あるいは買おうと

する）顧客は何に注目してい  
るか。言うまでもない。これ  
らのファンドの収益を規定す

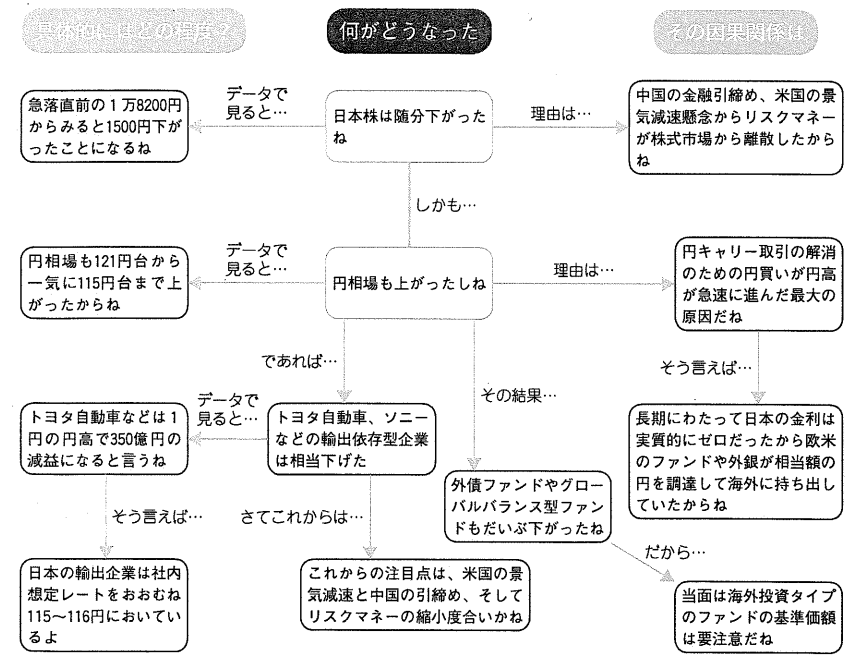
るマーケットの動きだ。そう  
であれば、この「マーケット  
の動き」についての表現能力

をどの程度持っているかが問  
われるのは当然だ。しかし、  
残念ながらこの点について銀  
行窓口等での対応

「定性表現」から  
「定量表現」に進める  
ここでは2つのテーマを取  
り上げておく。

ん、「円キャリー取引」と表  
現する際には、日本の金利が  
あまりにも低かったため、主  
に欧米の機関投資家、銀行、  
ヘッジファンドなどが超低金  
利の円を調達、それを欧米に  
持ち出して株、債券、商品先  
物などを買うという動きが広  
範囲に見られた、という現状  
認識がなければならぬ。

図表2 表現力をアップさせるための2つの基本スキル（経済・マーケット一般編）



例えば、最近の  
マーケットの変容  
について表現する  
としよう（以下図  
表2参照）。単純  
に言うと「日本株  
は随分下がった  
ね」とか「円相場  
急速に上がりまし  
たね」などの表現  
が最も一般的であ  
ろう。では、この  
表現をさらに豊か  
にするためにはど  
うすればいいか。  
つまり、この手の  
マーケットの動き  
を報じる表現の質  
を高めるためには  
どうすればいいか。

「下があった」とか「上昇し  
た」という動詞だけで表現す  
ることから一歩進んで、「ど  
の程度」を「数量的に示す」  
のだ。いわば「定性表現」か  
ら「定量表現」へ一歩進める  
のだ。「日本株は下がった」  
から一歩進めて、「1万82  
00円から1万6700円へ  
1500円下がった」と表現  
するのである。  
2つ目には、図表2の右半  
分に示したように、「その因  
果関係を示す」のだ。例えば、  
「円相場が上がった」のであ  
れば「円キャリー取引の巻き  
戻し、解消が部分的に進んだ  
ことが円高の原因」と、その  
原因に言及するのだ。もちろ

簡単に言えば、「数字で示  
すことのできる動きは努めて  
数字データを具体的に示  
す」「その現象のよつてくる  
原因に言及する」の2つを意  
識するだけで、あなたの表現  
は確実にレベルアップする。  
さて、ではそのためには具  
体的にどのような学習が有効  
なのか。  
次号は、名実ともに新年度  
入り（4月20日発売）。これ  
から数回〜6回程度に分けて  
マーケットを見るための基本  
をできるだけ現実に即しながら  
（教科書的記述に墮さない  
ように）お話しすることにし  
よう。（3月8日）